

国立大学法人・大学共同利用機関法人では、第4期中期目標・中期計画策定に向けて、評価指標検討を含む作業が進められています。一方、日本学術会議研究評価分科会では、研究評価における定量的評価手法及び資源配分へのその利用の問い直しに関する提言案が作成されるなど、研究評価の課題に対する関心が徐々に広まりつつあります。

2014年以降開催されてきた人文・社会科学系研究推進フォーラム及びJINSHA情報共有会では、フォーラム運営ネットワーク校が中心となり、人社系研究における研究評価の課題について継続的に議論を進めてきました。その中で取り上げた「責任ある研究評価」という概念は、人社系研究に限らずあらゆるステイクホルダーによる評価方法の見直しを求める包括的な概念として注目されています。JINSHA情報共有会では、2021年、この「責任ある研究評価」に焦点を当て理解を深めるとともに、評価に関する継続的な議論の場を設けることとします。

初回となる今回は、大学・研究機関にとっての「責任ある研究評価」とはどのようなものか、日常の研究活動・機関運営にどのように関係するのか、海外のスピーカーからの話題提供と国内のスピーカーからのコメントをもとに議論し、理解を深めることを目指します。

▶ 今回のテーマ

責任ある研究評価を考える

—大学・研究機関にとっての責任ある研究評価とは—

スピーカー：

James Wilsdon (The University of Sheffield)

Justin Zobel (The University of Melbourne)

後藤由季子 (東京大学)

押海 圭一 (人間文化研究機構)

2021年2月5日(金) 16時—18時

オンライン開催 (Zoom ウェビナー / 定員 300名) ・日英同時通訳付き

対象：研究者、URA等大学・研究機関職員、省庁関係者、助成団体関係者等 (要事前申込)

参加費：無料

主催：京都大学学術研究支援室 (KURA)

人社フォーラム運営ネットワーク

(大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学、中央大学、広島大学)

2021年2月5日(金) 16時—18時 (開場 15時45分)

当日の
プログラム

- 16:00-16:10 趣旨説明
- 16:10-16:40 話題提供 (Wilsdon 氏) 『『責任ある研究評価』の現在』
- 16:40-17:00 話題提供 (Zobel 氏) 「メルボルン大学における RRA の位置づけ DORA 署名」
- 17:00-17:10 コメント (後藤氏)
- 17:10-17:20 コメント (押海氏)
- 17:20-17:55 質疑応答・ディスカッション
- 17:55-18:00 まとめ

【備考】セミナーを通じて共有された課題や、参加者からの意見を整理した情報は、参加者間で共有するだけでなく、ウェブ上での公開に使用させていただきます可能性もあります。

スピーカー
プロフィール

James Wilsdon 氏 Digital Science Professor of Research Policy.
Director, Research on Research Institute (RoRI), the University of Sheffield)



— The Metric Tide (2015), Next-generation metrics (2017) 主著者で、昨年末に刊行された RoRI Working Paper (2020) の共著者。このワーキングペーパーは、「責任ある研究評価」の最新状況をまとめたものとして引用され包括的な報告書として知られる。

Justin Zobel 氏 Pro Vice-Chancellor, Graduate & International Research, Chancellery (Research and Enterprise) and Redmond Barry Distinguished Professor, School of Computing & Information Systems, the University of Melbourne



— メルボルン大学内で研究評価に関するワーキンググループを設立し、DORA の署名へと導いたキーパーソン。現在は、副学長（大学院・国際研究、学長室（研究及び企業）担当）であるとともに、研究評価指標の責任ある使用に関するアドバイザーグループの議長を務める。

後藤 由季子氏 東京大学大学院薬学系研究科・教授
ニューロインテリジェンス国際研究機構 (IRCN) 主任研究者



— 研究評価に関するサンフランシスコ宣言 (DORA) の Advisory Board メンバー。

押海 圭一氏 人間文化研究機構・特任助教



— 総合地球環境学研究所 IR 室（研究推進、研究 IR、国立大学法人評価業務などを担当）、琉球大学 URA を経て、2020年4月より現職。研究（人文学、社会科学、学際などを含む）を推進・発展させるために本当に必要・有効な評価とは何か、ということ日々考えています。日本評価学会認定評価士。法務博士（専門職）。

お申込みは
こちらのページから

<https://www.kura.kyoto-u.ac.jp/event/20210205/>
(要事前申込)



JINSHA 情報共有会とは

(JINSHA: Japan Inter-Institutional Network for Social Sciences, Humanities and Arts)

複数大学の URA 連携により 2014 年度から実施している人文・社会科学系研究推進フォーラムの関連企画として、2017 年度から中規模程度の情報共有会を不定期開催しています。2021 年 1 月現在、幹事校は 9 校（大阪大学、筑波大学、琉球大学、京都大学、早稲田大学、北海道大学、横浜国立大学、中央大学、広島大学）。